

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	112人	算数	112人	理科	112人
第5学年	国語	98人	算数	98人	理科	98人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

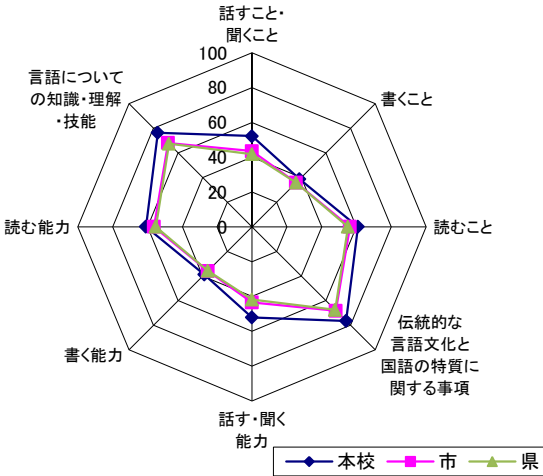
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	52.1	43.5	41.8
	書くこと	38.7	35.9	35.8
	読むこと	60.9	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.5	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	52.1	43.5	41.8
	書く能力	38.7	35.9	35.8
	読む能力	60.9	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	76.5	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

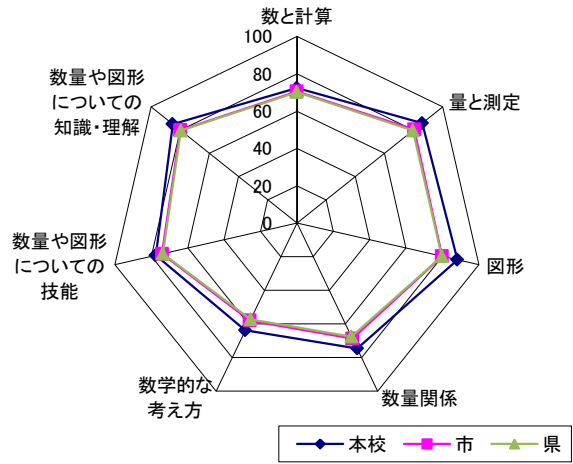
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は、市の平均を8.6ポイント、県の平均を10.3ポイント上回っている。 ●「話の中心に気をつけて聞き、意見を述べる」設問の正答率が低い傾向がある。	・朝の会でスピーチを取り入れたり、会話科との関連を図りながら自分の考えを人に伝える練習をしていきたい。
書くこと	○本校の平均正答率は、市の平均を2.8ポイント、県の平均を2.9ポイント上回っている。 ●正答率は市・県の平均上回っているものの、他の設問に比べ無解答が多かった。	・文章を書くときに、自分の伝えたいことを明確にできるように、様々な場面で語彙力を増やす指導を行うとともに、日記を宿題に取り入れ、文章を記述することへの抵抗感をなくしていきたい。
読むこと	○本校の平均正答率は、市の平均を4.6ポイント、県の平均を5.7ポイント上回っている。 ●目的に応じて文章を要約する設問で、誤答・無解答率が高かった。 ●文学作品の読み取りで、登場人物の性格を捉える設問では正答率が市や県の平均を下回り、無解答率も高かった。	・日頃から音読の課題を出したり、読書を奨励したりして登場人物の言葉や行動の意味を考えさせる場を増やしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の平均正答率は、市の平均を8.3ポイント、県の平均を9ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きや、国語辞典の使い方などが定着している。	・単元ごとに既習漢字を振り返り、復習して確実に定着するように支援をしていきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.4	70.5	70.3
	量と測定	85.9	80.4	79.6
	図形	88.2	79.8	79.7
	数量関係	74.5	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	63.8	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	77.6	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	85.1	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

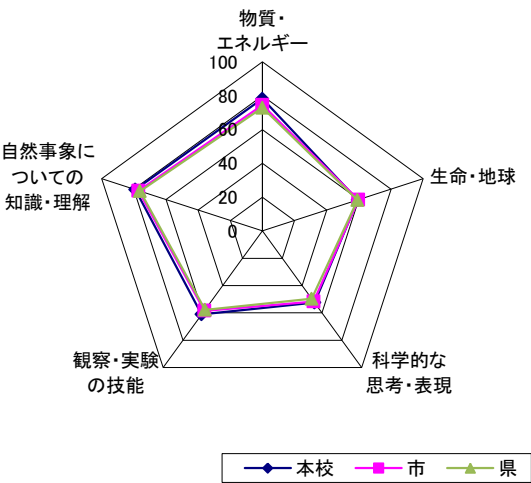
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は市の平均を1.9ポイント、県の平均を2.1ポイント上回っている。 ○基本的な計算の仕方は身に付いている。 ●除法の余りを処理する方法を問う記述式の設定問では、市や県に比べ正答率の高いものの、課題があると言える。	・学習した内容はほぼ身に付いていると思われるが、数直線上の表し方など今後も繰り返し復習させ、定着を図りたい。 ・自分の考えを順序良く説明できるように指導するとともに、類似した問題を解くことで自信を持って解答できるようにしていきたい。
量と測定	○本校の平均正答率は市の平均を5.5ポイント、県の平均を6.3ポイント上回っている。設問別に見ると、時間の換算についての正答率が高い。 ●身近にあるものの重さを推測する設問では、正答率が市や県を上回っているものの、課題があると言える。	・日常生活の具体的場面における量感と学習で習い覚える知識が結びつくよう、知識を生活に生かすことができる場を設けたい。
図形	○本校の平均正答率は市の平均を8.4ポイント、県の平均を8.5ポイント上回っている。 ○設問別に見ると、作図についての正答率が高い。	・一人一人のつまづきを見取りながら作図の指導を行い、4年生で学習する垂直や平行の指導につなげたい。
数量関係	○本校の平均正答率は市の平均を5.8ポイント、県の平均を7ポイント上回っている。 ○棒グラフの1目盛の大きさを読み取ることがしつかりできていた。	・設問の内容を読み間違えて誤答する傾向が見られた。文章をよく読み、質問内容を正確に読み取れるよう繰り返し指導していきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	78.2	74.5	72.9
	生命・地球	59.3	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	52.4	51.6	49.7
	観察・実験の技能	61.1	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	79.0	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○本校の平均正答率は、県・市よりも高く、3.5ポイント以上の差がある。 ○電気についての設問では、県・市の平均を10～20ポイント上回っていて基礎的な知識が身に付いている。 ●推測する設問や説明する設問のような科学的な思考・表現では、ポイントが低く、論理的に考え、説明することを苦手としていることが分かる。	・理科での追究の仕方を確認し、根拠に基づいた推測や理由を表現する力を育てていきたい。
生命・地球	○本校の平均正答率は、県・市とほぼ同等である。 ○生物の基礎を問う設問では、県・市よりも正答率が上回っており、問い方の難易度はあるにせよ、ほぼ基礎的事項が定着している。 ●「日なたと日かげの地面の様子の違い」や「温度計の目盛の読み方」の正答率が他の設問より低い。この設問はテストの最後であり、解く時間が足りていなかったと考えられる。 ●グラフから読み取り考察する設問の正答率が他の設問に比べて低い。無回答率は他の設問と比べて高い。	・「日なたと日かげの地面の様子の違い」や「温度計の目盛の読み方」の内容について時間を取って定着を確認していきたい。 ・学習の中で、表やグラフ等の資料データを元にして、そこから何が読み取れるか考える時間を十分にとれるようにする。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の教科の勉強は好きですか。」という質問での肯定的回答率は77.7%であり、県より12.2ポイント、市より8.4ポイント上回っている。また、「国語の学習の内容はよく分かりますか。」という質問では肯定的回答率は92.0%であり、県より5.4ポイント、市より2.2ポイント上回るなど、国語の学習への意欲が高く、理解度が高まっていることがうかがえる。さらに、「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べていますか。」という質問に対し、77.7%の児童が肯定的回答を示し、県や市の平均肯定回答率を10ポイント以上上回っている。これは、学び方の一つの方策として、辞書を使って問題解決をするという意識が高まっているからであろう。これからも学校や家庭で、すぐに辞書が使えるような環境整備を行い、基礎学力の向上と図るとともに自ら学ぶ姿勢を育てていきたい。

○●「算数の学習は、将来のために大切だと思いますか。」という質問への肯定的回答率は98.2%であり、県より4.2ポイント、市より1.7ポイント上回っている。ほとんどの児が算数の学習を重要だと捉えていると言える。ただ、「算数の学習は好きですか。」という質問への肯定的回答率は78.6%と県を0.3ポイント上回り、市を1.3ポイント下回っている。また、算数の問題において正答率の高い児童と低い児童の回答率の差が26.2ポイントと大きい。学習場面でティームティーチングを活用した習熟度別指導、少人数指導をさらにきめ細やかに行うことにより、分かる授業を展開し、基礎学力の定着を図っていきたい。

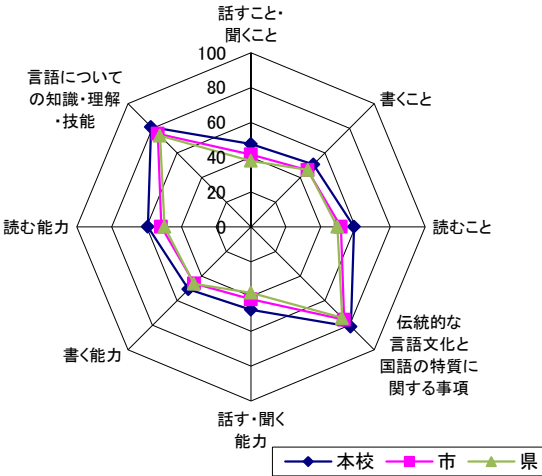
●「家の人と学校でのできごとについて話をしている。」への肯定的回答率は85.7%で県や市と比べわずかに上回っている。また、「家の人と学習について話をしている。」への肯定的回答率は74.1%で県や市とほぼ同じであった。

○●児童の回答と学力テストの平均正答率の相関を調べると、平均正答率の高い児童ほど肯定的回答率が高かった。つまり、学校のできごとを家庭で話題として、子どもと一緒に考えを交わす時間の有無が児童の意欲の向上と関連があると言える。保護者と児童が共通の話題で話す機会が増えるよう、学校ホームページや学年だより、学級懇談等の機会を利用して家庭への話題提供を図っていくようにしたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	47.6	41.6	37.9
	書くこと	50.7	46.1	46.3
	読むこと	59.2	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.1	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	47.6	41.6	37.9
	書く能力	50.7	46.1	46.3
	読む能力	59.2	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	81.1	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

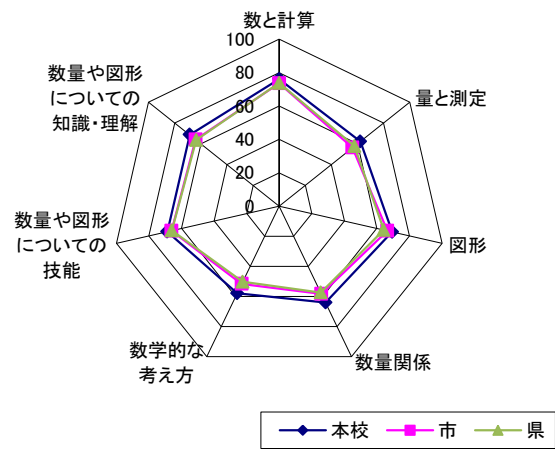
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は、県の平均を9.7ポイント、市の平均を6ポイント上回っている。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する設問の正答率は県と市の平均正答率より10ポイント以上高い。 ●話し合いにおいて、みんなの賛成を得た意見の理由を考え記述する設問では、正答率が低かった。	・集中して話し手の意見に耳を傾けることができるよう、話を聞くときの態度についての指導していきたい。また、話し方でよかったところや工夫されているところなどを考えながら聞くことができよう、声をかけ続けることで意識付けを図りたい。 ・各教科の話し合いの場面で論点を明確にできるよう、適時支援していきたい。
書くこと	○本校の平均正答率は、県の平均を4.4ポイント、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ○目的に応じて資料の見せ方を工夫する設問の正答率は県と市の平均正答率より9ポイント以上高い。 ●資料と話し合いを基に、学級新聞に付け足す文を考える記述の設問では無答率が高く、課題がある。	・文章から分かったことや疑問に思ったことをまとめたり、テーマに沿って文章を書いたりする機会を設定し、書く力を高めさせたい。 ・様々な場面で自分の思いや考えを書く機会を設けることで、書くことに慣れさせていきたい。
読むこと	○本校の平均正答率は、県の平均を9.5ポイント、市の平均を7.6ポイント上回っている。 ○中心となる語を捉えて読んだり、目的に応じて文章を要約したりする設問の正答率は、県と市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●段落相互の関係を押さえて読む設問は、県や市の平均は上回っているものの、課題がある。	・物語文を読んでいく際に、細かい表現や場面の情景を表す言葉を丁寧に取り上げながら、場面の变化を読み取らせていくよう指導していきたい。 ・段落相互の関係に着目した読み方の習熟を図り、場面の移り変わりを感じながら読み取る力を伸ばしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の平均正答率は、県の平均を7.1ポイント、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ●漢字の読みの平均正答率は9割を超えている。漢字を書く設問の平均正答率は7割を下回っている。	・新出漢字を丁寧に指導するとともに、漢字ドリルなどによる繰り返し練習する場面を設定することで定着を図りたい。また、定期的に漢字テストを実施し、児童が自分の定着状況を確認しやすくすることで、確実に定着できるようにしていきたい。 ・知識を関連付け漢字を覚えやすくするため、漢字の成り立ちについても伝えていきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.1	73.6	73.7
	量と測定	62.2	56.2	57.7
	図形	69.4	66.5	64.2
	数量関係	64.2	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	57.9	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	68.7	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	68.6	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

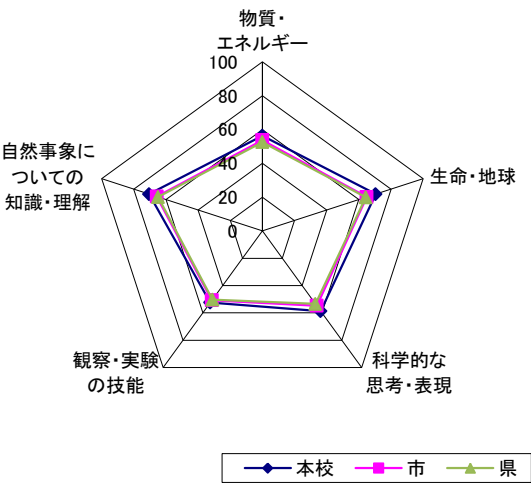
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は、県及び市の平均を約2.5ポイント上回っている。 ●「小数(小数第2位)÷小数(小数第1位)」及び「小数(小数第1位)÷2位数」の計算で、県及び市の平均を下回っており、小数同士の計算に課題がある。 ●減法や除法で操作が複雑になる場合に正答率が下がる傾向が見られる。	・補充プリントや計算ドリルを活用して繰り返し様々なタイプの計算問題に触れさせることで、確実な定着を図っていききたい。
量と測定	○本校の平均正答率は、県の平均を4.5ポイント、市の平均を6ポイント上回っている。 ●1㎡の正方形をcmの単位で表し直す設問では、県の平均を上回っているものの、定着に課題がある。 ●面積を工夫して求める式を選ぶ設問では正答率が7割を下回り、課題がある。	・面積を工夫して求めなければいけない問題では、実際に組み直してみたりするなどの具体物操作を充実させることで理解をより確実なものにしていきたい。
図形	○本校の平均正答率は、県の平均を5.2ポイント、市の平均を2.9ポイント上回っている。 ●ひし形を対角線で分けた図形が二等辺三角形になる理由を考える設問の正答率は、県や市の平均を上回っているものの、課題がある。	・作図をする技能は身に付ける学習では、今後も個別指導を充実させることによって技能の確実な定着を図っていききたい。 ・図形の性質を言葉で覚えるだけでなく、切ったり貼ったりする操作活動を取り入れることで、図形の定義についての理解をより確実なものにしていきたい。
数量関係	○本校の平均正答率は、県の平均を6.7ポイント、市の平均を5.8ポイント上回っている。 ●2つの折れ線グラフを正しく読み取り、比較して考察する設問の正答率は、県や市の平均を上回っているものの、課題がある。	・グラフからわかることを話し合ったり互いの考えを伝えあったりする活動を取り入れることで、多面的に資料を読み取る力高めたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.4	53.7	52.5
	生命・地球	70.5	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	58.7	54.7	53.4
	観察・実験の技能	52.4	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	70.5	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の平均正答率は、県の平均を3.9ポイント、市の平均を2.7ポイント上回っている。 ○空気を押す際の体積と手応えの変化や空気を押したときの水が吹き出す理由を問う設問の正答率は、県や市の平均を5～9ポイント上回っている。 ●金属、水、空気の温度では、設問によって県や市の平均正答率を10ポイント以上上回っているものもあるが、3ポイント近く下回っているものもあり、課題が見られる。 ●水の状態変化を問う設問で、基礎、活用共に課題が見られる。	・各自が学習内容を整理し理解しやすくなるように、実験、観察から得られた結果や事実を言語化し、全員で確認しながら共有する活動を取り入れていきたい。 ・学習を通して抱いた「なぜ」「どうして」という問いを、各自が進んで追究していけるよう指導・支援することで、学習に対する自主性を育みたい。また、身に付けてきた知識や考え方をもとに身の回りの事象を見つめ、考える姿勢が身に付くようにしたい。
生命・地球	○本校の正答率は、県の平均を6.2ポイント、市の平均を5.6ポイント上回っている。 ○季節と生物の関係に関する設問では、正答率が県や市の平均を9～15ポイント上回っている。 ○天気の様子に関する設問では、半数以上で正答率が県や市の平均を5ポイント以上上回っている。 ●月と星に関するほとんどの設問では、県や市の平均を上回っている。しかし、学習内容の定着に偏りが見られる。	・授業と、それに続く家庭学習の中で知識を身に付けることができるよう自主学習を奨励したり、知識を機械的に覚えるのではなく、ノート作りやマインドマップ作り等を活用した整理、関連付けの仕方ができるように支援したりして、学習内容の定着を図ってきたい。 ・学習し習い覚えた知識を関連付けて、身の回りの事象を解説するような学習活動を取り入れるようにしていきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定的回答率は、86.7%で、県や市を15ポイント以上上回っている。このことから、授業で学んだことを振り返ろうという意識が学年全体で高まっていることが分かる。また、テストの正答率が高い児童ほど肯定的回答を寄せていることが分かった。これからは、更に授業を振り返る活動を充実させるため、どのような指導・支援が有効であるかを考えていきたい。

○「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の肯定的回答率は、県や市を10ポイント以上上回っている。このことから、本時の目標を意識しながら、授業に取り組んでいることが分かる。児童間で大きな個人差が見られないことから、ノートに自分の考えを整理し、まとめようという意識が学年全体で高いといえる。今後も継続して、指導していきたい。

●「家で、学校の授業を復習している。」の肯定的回答率は、県や市と比べ10ポイント程度下回っている。また「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答率は、県や市と比べ4ポイント以上下回っている。このことから、自主学習に課題があることが分かる。しかし、個別に取組をみていくと、個人差が大きいことが分かった。テストの正答率の高い児童ほど肯定的回答をよせている。これからは、誰もが家庭学習を充実させられるよう、自主学習の声掛けだけでなく、具体的な方法を検討し、児童に広く周知させる手段を検討していきたい。

●「家の人と将来について話すことがある。」の肯定的回答率は63.3%で県と比べ1.6ポイント、市と比べ6.1ポイント下回っている。また、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」の肯定的回答率は73.5%で県と比べ6.5ポイント、市と比べ9.1ポイント下回っている。学校として、授業参観や個人懇談等で、児童の将来性や良い所を伝え、家庭での会話の話題を提供していきたい。

●「家での決まりや約束を守っている」の肯定的回答率は、83.7%で、県や市と比べ4.6ポイント下回っている。学校生活での約束を児童と共通理解し、約束を守る大切さを実感できるようにするとともに、長期休業前には休みの日の過ごし方についても積極的に家庭へ情報を発信して同じ歩調で子どもと接することができるようにしていきたい。